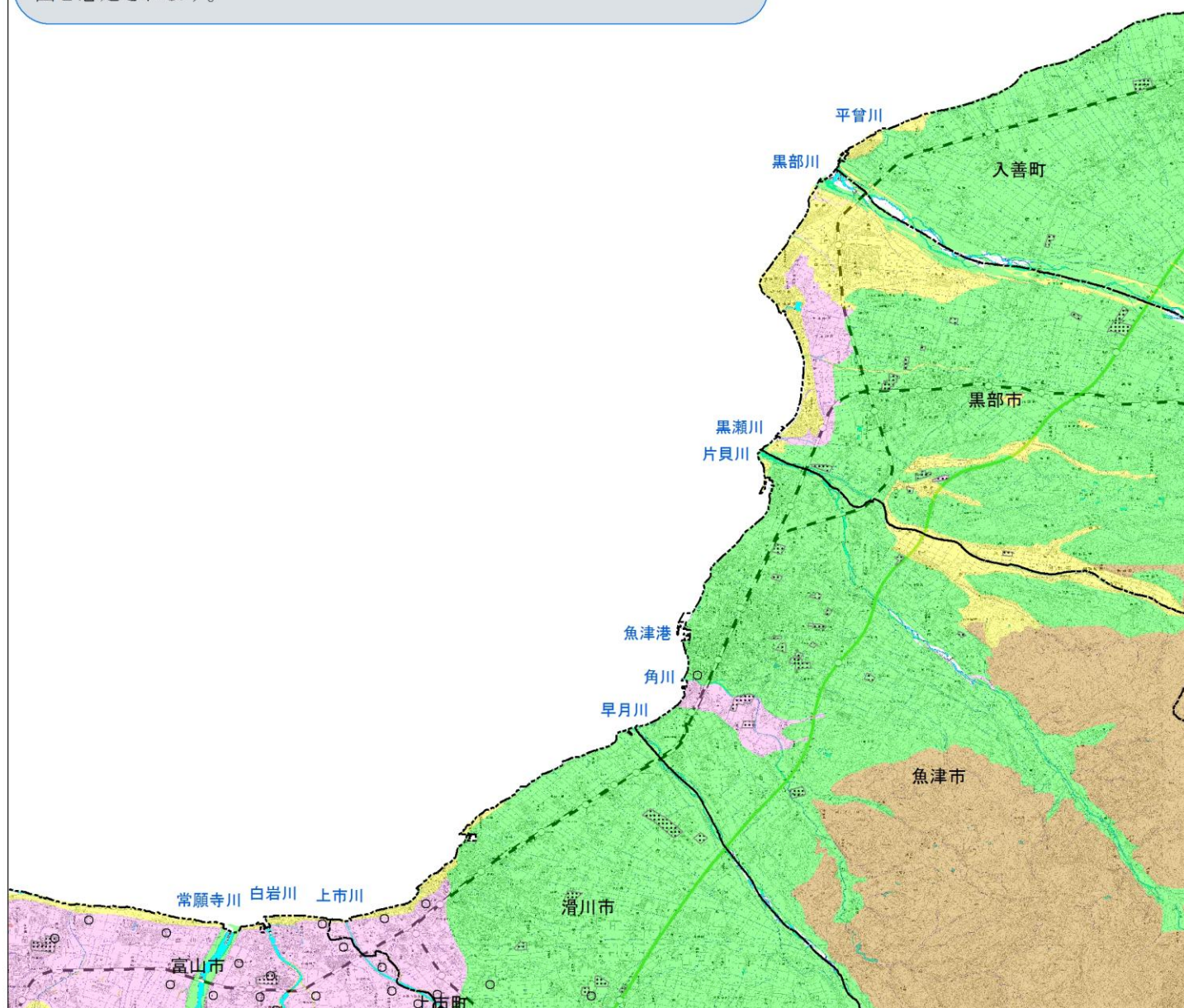


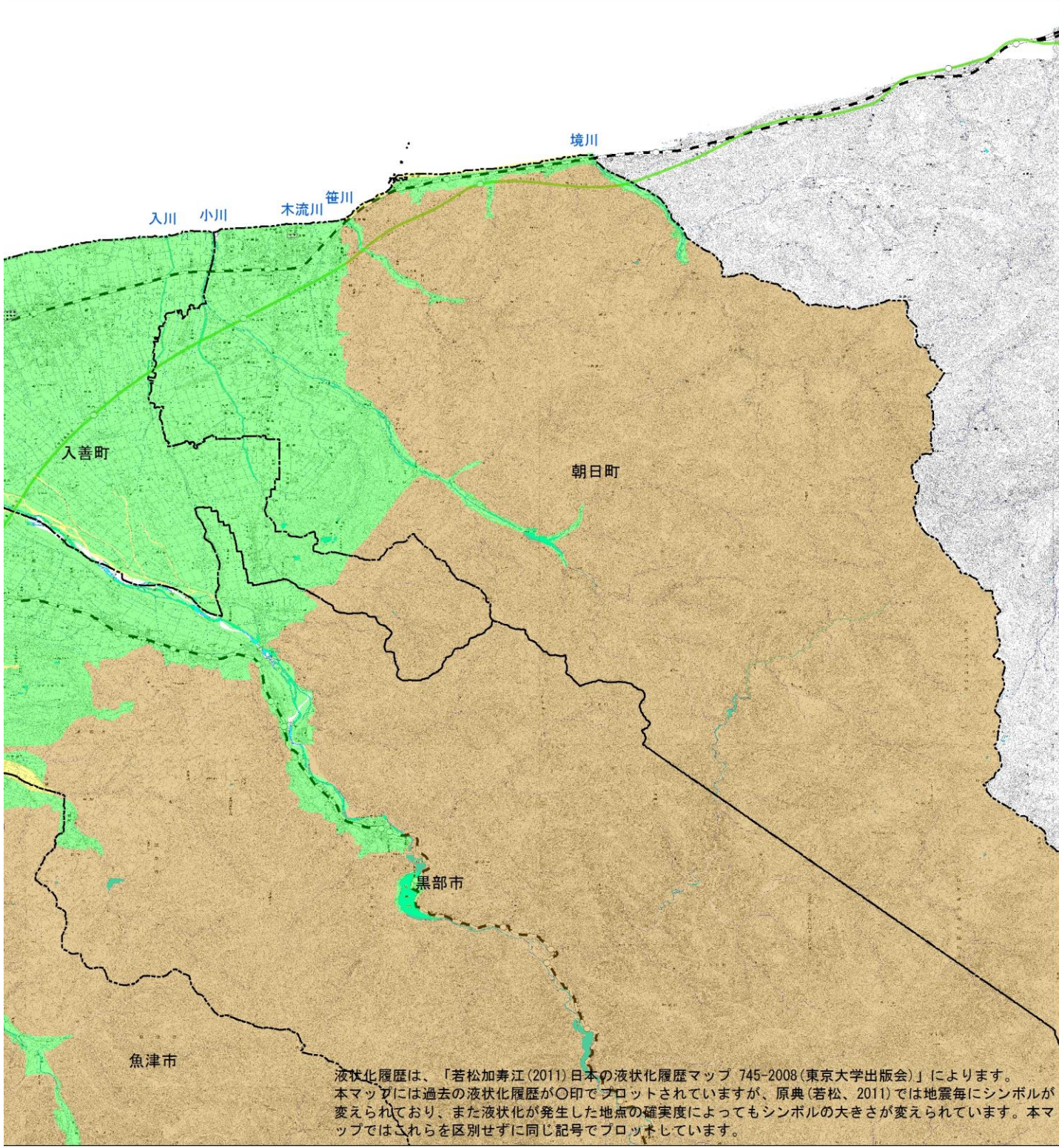
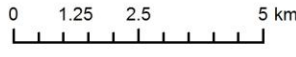
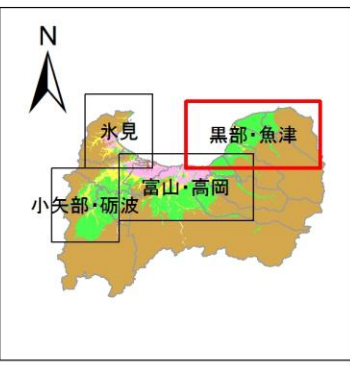
## 2章. 液状化しやすさマップ

### 黒部・魚津地域

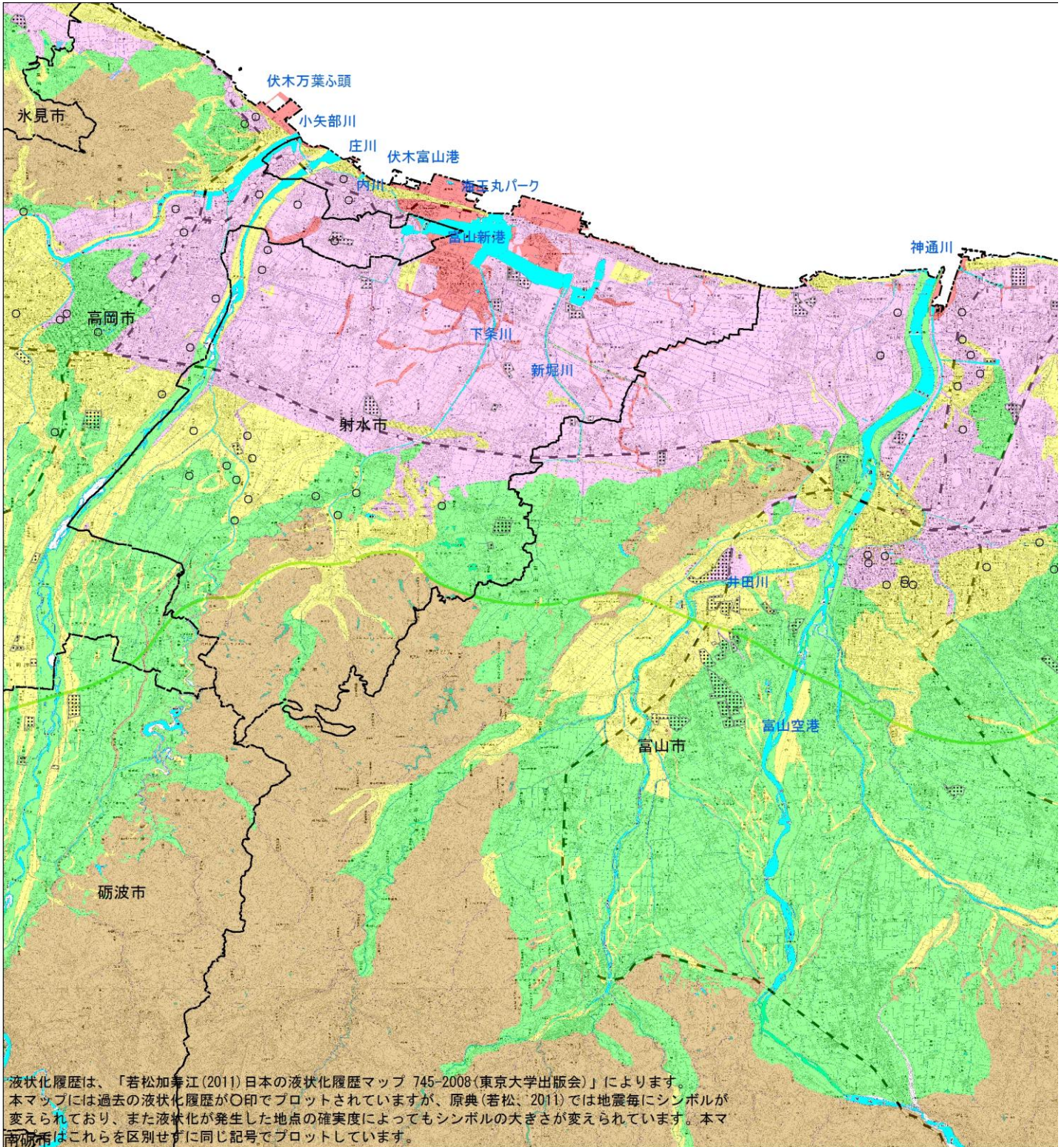
本地域東部～南東部には、高山性の山地(立山連峰)とその縁辺山地が広く分布します。山地と海岸の間には、上流から下流に向かって、小川、黒部川、片貝川、早月川等の急流河川による段丘と扇状地が広がっており、一部河川沿いと扇状地末端部に氾濫平野が分布します。また海岸沿いには幅の狭い砂丘、浜が分布します。

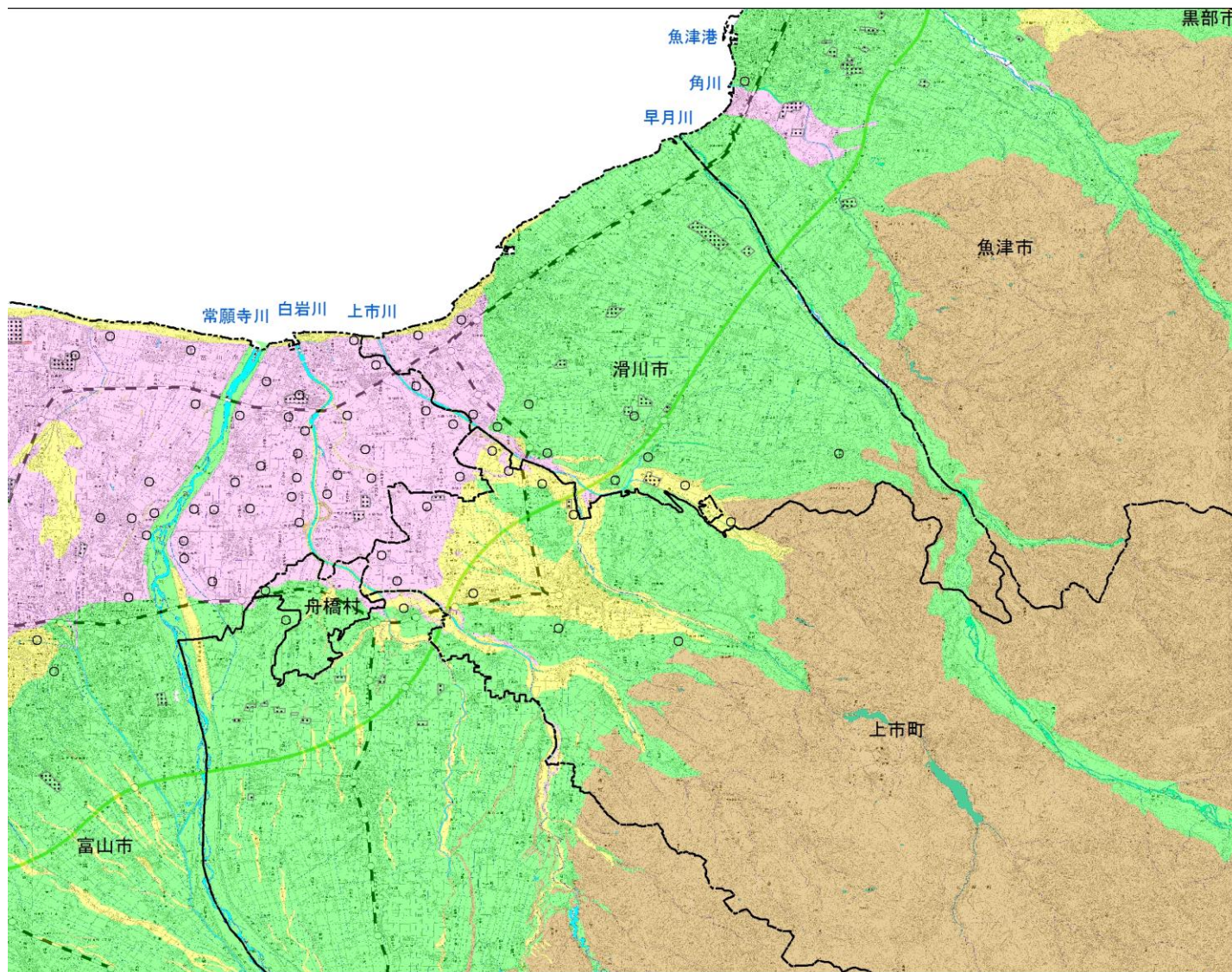
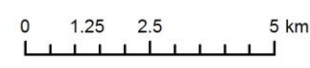
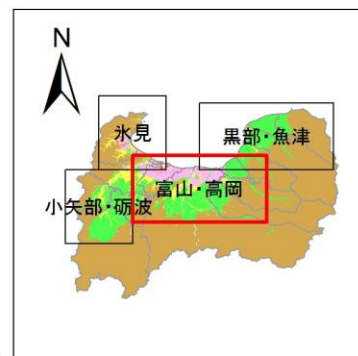
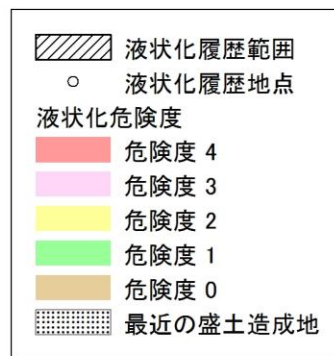
段丘と扇状地は主に締め具合の良い砂礫で構成されているため、液状化の可能性は低いといえます。また氾濫平野の一部は地下水位が高く、締め固まっていない砂層から構成されているため、液状化の可能性のある範囲と想定されます。





# 富山・高岡地域



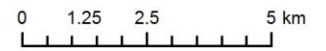
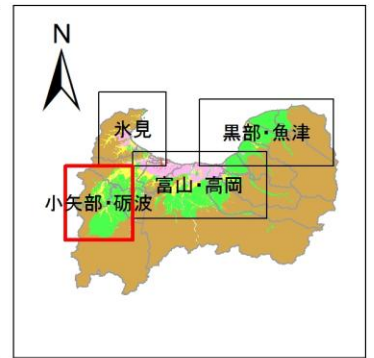
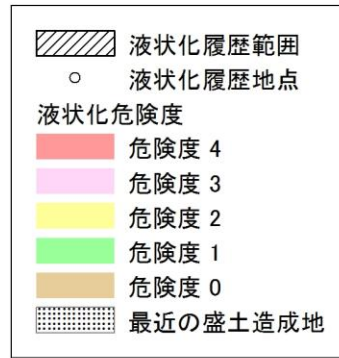


呉東地域(早月川から神通川)では、河川上流側の低地部に扇状地が広く分布し、背後には段丘と高山性山地及びその縁辺山地が分布しています。扇状地は主に締め具合の良い砂礫で構成されているため、液状化の可能性は低いと想定されます。河川下流側には氾濫平野が分布し、締め固まっていない砂層と粘土層から構成されるため、液状化の可能性はあると想定されます。

呉西地域(神通川から庄川)では呉羽山等の丘陵地が下流側に張り出ており、庄川沿いを除いて低地部の扇状地は比較的少なく、氾濫平野と海岸平野が分布しています。海岸平野は埋積性の平野であり軟弱な粘土層を主体としますが、地下水位が高く砂層が介在するため、氾濫平野下流域と同様に液状化の可能性のある範囲と想定されます。また富山新港周辺部の後背湿地と埋立地は、地下水位が高く締め固まっていない砂層を介在するため、液状化の可能性が高い範囲と想定されます。

低地部には細長い旧河道と周辺よりやや高い自然堤防・微高地が分布し、締め固まっていない砂層が介在する場合があります。これらの地形分布域の一部は、液状化の可能性があると想定されます。

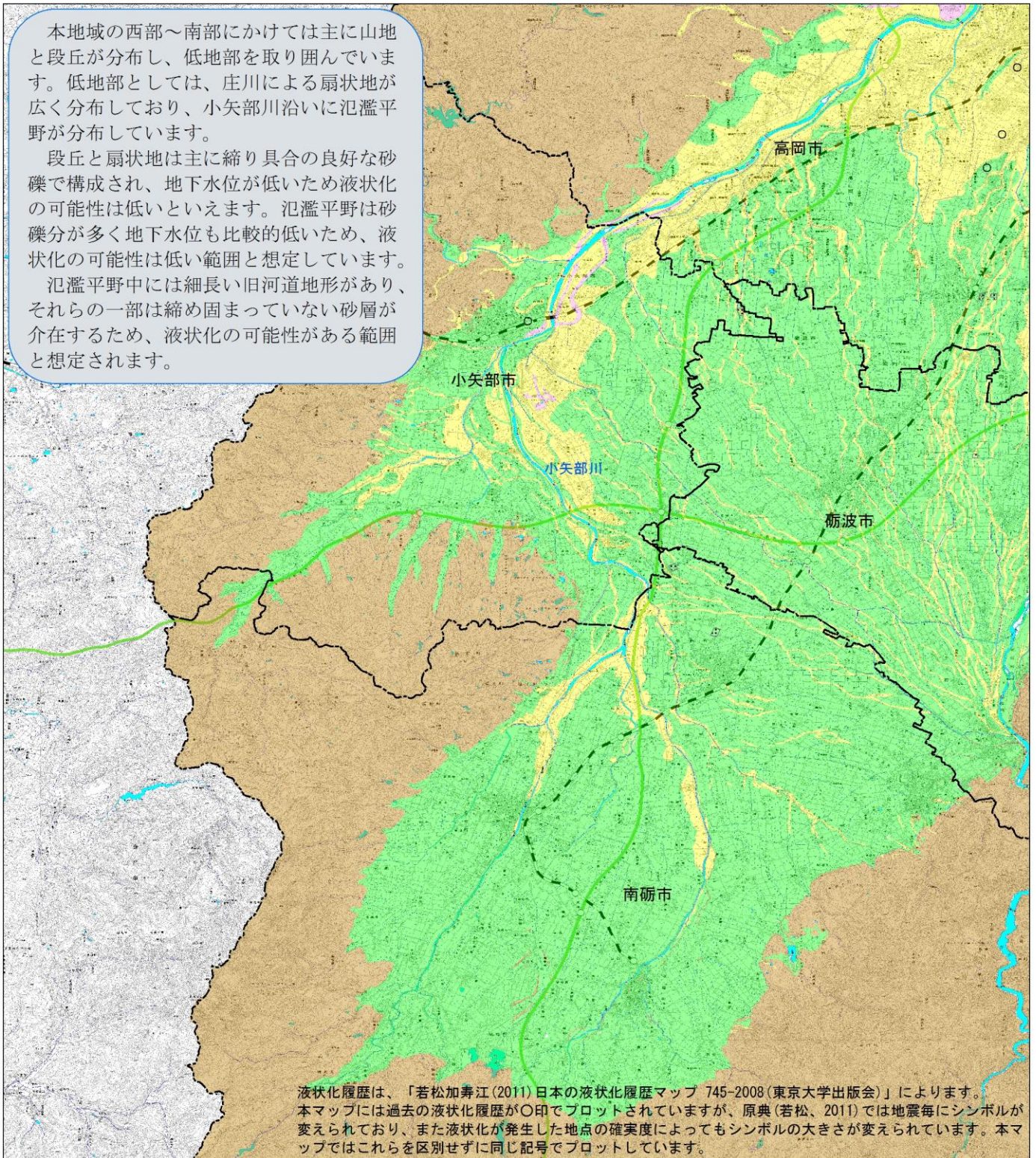
# 小矢部・砺波地域



本地域の西部～南部にかけては主に山地と段丘が分布し、低地部を取り囲んでいます。低地部としては、庄川による扇状地が広く分布しており、小矢部川沿いに氾濫平野が分布しています。

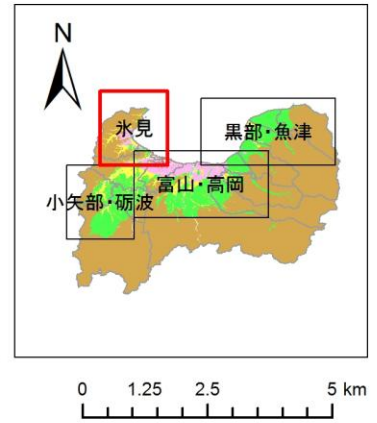
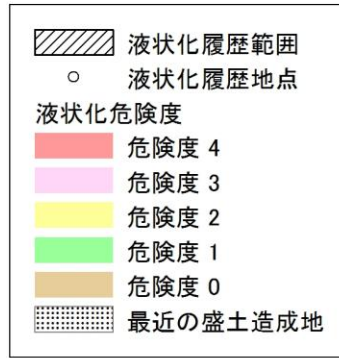
段丘と扇状地は主に締め具合の良好な砂礫で構成され、地下水位が低いいため液状化の可能性は低いといえます。氾濫平野は砂礫が多く地下水位も比較的低いため、液状化の可能性は低い範囲と想定しています。

氾濫平野中には細長い旧河道地形があり、それらの一部は締め固まっていない砂層が介在するため、液状化の可能性があると想定されます。



液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

# 氷見地域



本地域は主に標高500m以下の丘陵地性山地からなり、低地部は氷見市街地方向に集中するように流れる河川沿いの氾濫平野と、その下流の海岸平野で構成されています。また海岸平野の海側には砂丘が分布しています。

各河川上流の氾濫平野は、締め固まっていない砂層と粘土層からなり、液状化の可能性がある範囲と想定されます。また海岸平野は、砂丘の発達により日本海から切り離されて生じた水域(十二町潟)に河川からの堆積物が逐次埋積して形成された潟埋積性平野であり、軟弱な泥・泥炭を主体としていますが、締め固まっていない砂層を介在しているため液状化の可能性があるかと想定されます。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008 (東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

